

富士見市基本構想策定ふじみ市民会議  
第4回 教育文化部会 会議録

日時：平成22年1月29日(金) 午後7時～午後9時 場所：市役所2階 市長公室
--

出席状況

市民会議委員	高橋委員、阿部委員、岩田委員、西山委員、羽石委員、深田委員 (欠席4名)
庁内専門部会員	教育総務課長、学校教育課長
事務局(政策財務課)	吉野、林

傍聴者	なし
-----	----

内 容	
1 開 会 事務局	
2 あいさつ 市民会議 部会長あいさつ	
3 報告事項	
・ 前回会議の質問事項に対する回答	
質問	大柱「人権の尊重」の行政水準欄に示されている人権に関する講演会・講座数の内訳について。
回答	別紙資料を提示し、市民対象のほか、職員等も対象者に含んでいる講演会・講座の内訳を説明。
委員：	市民対象の研修等も、今後、充実していただきたい。
4 検討事項	
・ 前回に引続き、第4次基本構想の「施策の目標」に対する今後の課題について、市民意識調査・行政水準の概要と分析結果、及びこれまでの議論・資料を踏まえ、大柱ごとに整理した内容を事務局から説明した後、質疑応答、意見等を出し合った。	
	本日は、「文化財の保存と活用」「社会教育の充実」「生涯学習スポーツ・レクリエーションの充実」「国際交流の推進」について検討する。

## 質疑・意見

### <大柱 文化財の保存と活用>

事務局： 本日欠席の委員から事前に意見を伺っているため、別紙をもとに報告する。内容は大きく3点、一つ目は、指定文化財の今後の活用施策等の検討は、地域活性化資源としての活用重点をおくこと、二つ目は、文化財を活かしたまちづくりは、市民学芸員のほか資料館友の会とも連携を強化し取組んでいくことが望ましいこと、三つ目は、指定文化財以外の文化財についても市民協働で保存に取り組むとともに観光資源としても活用していくことである。

委員： 国・県・市の指定文化財は計31ヶ所あるがHPに掲載しているか。

事務局： 掲載している。

委員： この柱については、意識調査の設問項目がなく総合評価がない部分だが、民話、方言等の取組みについてはどうか。

事務局： 意識調査項目は全体的な施策から選択しているため、必ずしも全ての分野にわたっての設問構成とはなっていない。

専門部会員： 社会様式が変化した30年前に衣・食・住・通過儀礼などの民俗調査を当時の2市2町で同じ調査項目、同時期に行った。言い継がれている民話や方言も含め、20年前に「ふじみの昔話」として編集し、資料館に保存している。

委員： 学校での活用や、課題として掲げていた飽和状態となっている出土資料の保存については。また、市内文化財の位置を示したマップなどは作成しているか。他市では、文化財間の移動時間もあわせて掲載があり、1箇所に行くと、他の文化財にも立ち寄りたくなるような仕掛けがある。

事務局： 今回の調書は、第5次基本構想での今後の方向性につなげていくものであり、大きな括りでまとめているので、個別具体的内容について触れていない部分もある。ご指摘の点は、文化財の保存・継承の中で示している課題に含めている。

専門部会員： マップについては以前、入間東部地域合同で作成している。文化財を巡るとスタンプをもらえる作りにはしていたが、現在の状況は明確ではない。

委員： 観光資源としての市ブランドについて具体策はどうか。また市民から意見をとりまとめる機会については。

事務局： 「観光の振興」分野での協議もあるが、水子貝塚資料館や難波田城資料館などの活用を図りたい。市民からは2月に開催する地域別懇談会で意見をお聞きしていく。県では、観光振興として254バイパス脇にサイクリングロードを整備していくという新聞掲載があったが、環境に対する配慮や、地域活性化に効果があると思われる。

### <大柱：社会教育の充実>

委員： 図書館サービスについては、自分が必要としている本がなければ蔵書が少ないとの認識になると思う。資料数は多いほうではないか。ニーズにあえば利用が増えるとも限らない。今後、情報機器の発達課題となり、電子書籍の対応や蔵書のデータ化が必要となるのではないか。また、図書館へのアクセスは決して便利

とはいえない。市内循環バスの充実が望まれる。さらに、高齢化社会への対応として、入院や施設入所の高齢者対象とする図書館のデリバリーについても検討が必要ではないか。

委員： 中学生の主張大会で参加している中学生の選考についてはどうか。全中学生が関わっているかどうか疑問がある。

専門部会員： 各学校の代表選抜としているため、全生徒への関与はあるが、選考方法までは関知していない。

委員： いつもPTAに動員をかけられているが、中学生の一般保護者にもっと聞きに来てほしいので、本来のあり方を検討する必要がある。

事務局： ご指摘のとおり、動員に頼らず本当に聞きたい人、聞いてほしい人が集まる大会にしないといけない。

委員： 地域自治シンポジウムでは勤労者世代の関わり方が少ないが、情報提供が少ないのかどうか。参加を呼び掛けた担当課での後押しも必要である。

委員： 資格取得など現役世代が関心を持つことに予算をかけることも大事。民間にできることは全て民間に担ってもらふ発想だけでなく、市民ニーズがあれば行政でもアクションを起こしてほしい。そのような取組みにより、市に対する印象も良くなる。

委員： 成人式について触れられていないが、位置づけは。他市では実行委員会形式が多い。他市では中学校区単位で開催し、社会教育委員も関わりを持っている。本市でもアンケート結果をもとに見直しをしているか。

事務局： 本市は実行委員会形式ではない。アンケート結果の活用については確認する。  
生涯学習課確認 実行委員会について話は出ている。今後、そのような形をとることも考えられるとのこと。アンケートについては、以前実施していたようだが、本年度は実施していない。

委員： 4月23日は読書の日だが、ポスターを貼るなどの具体的な動きが見られない。中学生の主張大会、人権の尊重の研修でも目的、対象者を考慮して開催を。いつも聴衆が同じ顔ぶれになっている。主張大会は中学校持ち回りで行うとか、人権は道德の時間にあてるとか、工夫したらどうか。全般的に純粋な市民の聴衆が少ない。

事務局： 読書の日具体的な内容は確認する。

中央図書館確認内容 具体的な取組みはない。通常取り組みとして、読書の日前後にお話し会などを行っている。

<大柱：生涯学習スポーツ・レクリエーション活動の推進>

委員： 最近聞いたニューススポーツとしてごみスポーツがある。グループが時間内でごみの種類別にポイントをつけ競技するもので、市民参加によるまちの美化、愛着、ふれあい等々効果が期待できる。

委員： 箱根駅伝のコースでも実施している。

委員： 社会体育指導員は後継者育成の課題があるのではないか。地区体育祭も年々参加者が少ない状況にある。また、学校開放時のAEDは利用しやすいよう設置して

ほしい。設置場所も含め透明ケースの開け方、使い方について周知をお願いしたい。

委員： 利用時はAED設置の窓ガラスを割って取り出すということを、指導方法の説明のとき聞いている。

専門部会員： 設置場所は、目視できる場所にあるか学校訪問時に位置確認を全校で行っている。非常事態の使用のため、ケースは割って取り出すようになっている。AED講習会などで伝えていと認識しているが、命にかかわることなので十分配慮していく。

委員： 社会体育指導員の募集方法は。

専門部会員： 町会からの推薦のため一定人数が決まっている。

委員： 人が少ない現実に対応できるよう養成が必要。オープンに公募できるシステムを作る必要がある。

委員： ガーデンビーチの有効活用の視点で、冬季の利用はどうか。例えば釣り堀とか、何かに有効利用を。

専門部会員： シーズン前後に釣り大会の実施はあったが、シーズンオフを通して利用するには、修繕や設備投資、老朽化が進むなどの問題や費用対効果の面からもむずかしい。基本的にシーズンオフはメンテナンスにあてる時期と考えていたきたい。

委員： ふじみ野市での痛ましい事故は記憶に新しいが、ガーデンビーチの監視員による安全管理に対して評価が高い。引き続き、安全・安心な市民プールの提供をお願いする。プール入場者に関してだが、収支関係はどうか。利用者数は他施設と比較して多いのか、少ないのか。

事務局： 他施設と比較した利用者数が適正であるかどうかの判断はむずかしい。

委員： ガーデンビーチへのアクセスを図る意味からバスの増便が望まれる。また、夏休み中の図書館へのバス便も同様である。

専門部会員： 交通アクセスは全体に関わる問題であるが、市内循環バス2台では限界がある

事務局： 公共交通の充実は、道路・交通環境の整備の分野において検討している重要な内容である。ガーデンビーチへは、以前バスの運行があったが廃止した経緯がある。今後、費用対効果、民間バスとの連携なども視野に入れ、十分検討していく必要がある。

委員： 学校で総合的な学習としてガーデンビーチを積極的に利用する手立てはないか。

専門部会員： 全校にプールがある状況においてはむずかしい状況にある。

委員： 特に、ガーデンビーチから遠い学校はむずかしいのではないか。

委員： スイミングスクールに行っている子どもが多いなど地域による差も見られる。

委員： ガーデンビーチという市の施設に慣れ親しむ機会も大切ではないか。

委員： 夏休み前に無料利用券を小学校で配布し、周知を図っている。

委員： 学校開放により、学校のプールを一般市民に開放する可能性は。

専門部会員： 本来、学校プールは一般利用の想定がないため、管理体制の整備が問題となり、費用面なども踏まえると開放は困難である。

委員： 中学生の社会体験時に市の施設をさらに活用していくなど、中学生のときから市の公共施設に慣れ親しむ機会があるとよい。

<大柱：国際交流の推進>

委員： 市内小中学校にも外国籍の子どもは在籍しているが、日本人と考えが違うこともある。通常授業に他国の慣習、文化の違い、比較を取り入れたらどうか。また、国際交流フォーラムでの参加形態や国際理解につながる内容はどのようなものか。

専門部会員： 総合的な学習の時間において言語、食生活などを学び国際化理解を進めている。

事務局： 市民の動員はかけていない。国籍にかかわらず地域の一構成員であるという理解と、様々な国の文化や慣習等の違いに気づく機会として、多くの人に来てもらうため、民族衣装の試着や外国のお菓子の試食など、気軽に参加できる内容のほか、在日外国人の主張により、外国人が日本で直面する問題などを直接聞く場を設けている。また、親子連れでも参加しやすいよう保育も設けている。参加者は勤労者世代も多く、分散している。富士見市民の参加が多いが、市外や都内から訪れる方も多い。

委員： 最近、外国人登録者数が増えているようだが。

事務局： 会社の寮ができたなどの特殊要因もなく、具体的な要因は不明である。

委員： 在日外国人にとって、子どもの問題、就学、就労、DV、高校入試などがある。富士見高校では外国籍の入学許容枠はあるか。

専門部会員： 県立高校の所管はしていないが、情報として、富士見高校では日本語の習熟度によらず日本人と同様の試験と聞いている。外国籍の枠を設けている公立高校もあるので、そこを受験するのが有利と思う。

委員： ふじみ野市では、小中学校での取り出し授業への予算が打ち切りになったと聞いている。本市での取り出し授業の支援のひろがり。外国籍の子どもへの差別がいじめにつながる恐れや不登校になる恐れもある。子どもは子ども同士のコミュニケーションが大事であり、国際化に対応する教育は大切である。

専門部会員： 取り出し授業は予算化しているが、ボランティア人数の問題などから適切かどうかの判断はむずかしい。

委員： ガイドブックから外国語HPに移行しているとのことだが、HPを見られない環境にある外国人に対しての行政案内についての対応と、外国語HPへの言語別アクセス数は。また、市職員が直接対応する相談件数は。

事務局： 窓口に来られた外国人に対して、必要な部分のHPを印刷するなどしての対応は可能である。月別アクセス件数はわかるが、言語別件数はサイト上での設定がないため分からない。また、市職員が直接対応する相談件数の把握は現在ない。

委員： 姉妹都市交流のあり方についての検討とあるが、具体的には。

専門部会員： 姉妹都市であるセルビア共和国シャバツ市の社会情勢不安などから、交流が途絶えていた時期があったが、近年落ち着いてきており、文化交流なども期待できるが、その点を踏まえての課題である。

委員：国際化理解を推進する上では市職員だけでなく、一般市民対象の研修も必要。特に、学校教育で国際化に触れていなかった年代には必要ではないか。市民大学のメニューに、国際交流、多文化共生などを取り入れることもひとつの方法ではないか。

5 次回会議

2月以降を予定。具体的日程については、後日調整する。

6 閉会